

## 平成28年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成29年8月 25日

研究者	氏名：高田研（代表） 田中夏子		職位：教授
	所属(学科等)：社会学科		
研究課題名	災害教育の推進に関わる総合的研究		
研究年度	平成27	年度 から	平成28 年度まで
研究費の種類	特別研究費	交付額	1,630,000 円 (計)
研究費の種類		交付額	
研究概要等			
<p><b>【研究概要】</b></p> <p>1 釜石市被災地域調査</p> <p>これまで、片岸地区、釜石東部漁協管内、鶴住居と災害非難の詳細に関わる3冊の報告書を特別研究費で刊行しました。それは釜石を被災地体験ツアーとして訪問している中学校、高等学校生徒に対するボランティアガイドの手引きとしても使用されています。震災の経験を伝えることは、全国の子供達に対して防災教育推進からも重要です。また釜石市の検証委員会において、この資料は高い評価を受けて活用され、また調査報告が手本になって釜石市の広域調査も行われました。</p> <p>その第2次となりました本調査は2年間にわたり80歳から90歳の方々32人を対象に、半島での暮らしについて生い立ちから、その実像浮き上がらせていくための聞き取りを行いました。被災地である箱崎半島では更地化した土地に盛り土が整地され、道路がその上に付け替えられてきています。半島付け根にある最も被害が大きかった両石は99パーセントの家が流されており、もうかつての両石はどこにも存在しません。心の中に残っている明治以降の集落を少しでも文章に復元することです。高齢者は散り散りに仮設で暮らし、もう元の集落へ帰ることを諦めた方々も多くおられます。32名の生活史を鳥瞰すると、在りし日の箱崎半島の暮らしが浮かびあがってきます。調査報告書は建設が進められているメモリアルパークの重要な資料として、活用されていく予定です。</p> <p>5回の聞き取り調査実施には述べ31名の学生が参加し、学生自身の災害教育として現地で多くのことを学びました。</p> <p>2 災害教育の研究（熊本地震災害に伴う緊急調査）</p> <p>2017年4月に発生した熊本地震災害に対して、ボランティアサークル「バーサス」が5月、8月の2回、計12名の学生が災害ボランティア活動を行いました。このような災害時に被災地で学ぶ自己学習活動を RQ 災害教育研究センターは「災害教育」として防災教育とは違う定義で研究を行っています。また</p>			

徳島県阿波高校 1 年全員を対象とした防災教育の授業で、学生の一人が熊本で学んだことを報告しました。報告は以下の論文として『学習社会文化論』に掲載しております。

**【学会発表、書籍収録等】**

2017 年 3 月：高田研，田中夏子 編著

岩手県釜石市東部漁協管内『東日本大震災に関わる聞き取り調査報告書』 震災以前の漁業集落生活史 NPO 法人釜石市東部漁協管内復興市民会議 発行

2017 年 3 月：高田研，「災害支援で育つ若者たち～東北から広島、そして熊本へ～」降旗信一編著，持続可能な地域と学校のための『学習社会文化論』学文社 所収

2017 年 9 月：環境教育学会全体会、シンポジウムにおいて、災害教育の報告。